平成30年度 磐田市立長野小学校　学校評価書

A：90％以上、B：70～89％、C：69％以下

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察〇・改善策※	学校関係者評価委員から
やさしい子	◎自分も友達も大切にする子 ・学級で自分がされてうれしいことやいやなことを考え、必要に応じて掲示したり、定期的に評価したりする ・きらきらタイムで友達のよかったところを紹介して価値付ける ・人まかせにしないで自分の意見を言う、いやなことはいやと言う、正しいと思うことを言うことが大切であることを機会をとらえて指導する	あいさつや返事ができる	B	〇「日本一のあいさつができる学校」を目指し、3年目となる。毎日1学級が校門に立ち、登校時の子どもあいさつを交わしたり、よいあいさつをした子どもたちを放送で称揚したりした。場を捉えて繰り返し指導をした成果が表れ、学校全体で会釈をする習慣が定着しつつある。 〇学級で「うれしい言葉(行動)」「いやな言葉（行動）」について話し合い、必要に応じ掲示をすることで、視覚に訴えるだけでなく、ことあるごとに子供たちがそこに立ち戻り、考えることができた。 〇「一人もひとりにしない」という合言葉が子どもたちにも浸透しており、様々な活動や指導の際、常にこの言葉に戻るようにしたことや、きらきらタイムで互いによさを称揚することにより、円滑な人間関係を築くことができている。しかし、言いにくいことや他人と意見が異なることなどは伝えにくいと感じている児童が多いようである。 ※学年の発達段階に応じて、学級でやさしさについて考える機会を設けそれらを掲示し、やさしい言葉遣いや行動ができるようにする。（自分がされていやなことは人にしない） ※きらきらタイムで友達のよかったところを紹介し合うことで、子供のよい言動を価値付け、ほめる機会を増やすとともに、子供の気付きを育てる。 ※人に頼らず自分の意見を言う、いやなことはいやと言う、正しいと思うことを言うことが大切であることを機会を捉えて指導することを継続する。	・「一人もひとりにしない」という合言葉はとてもよいと思う。言いにくいことは伝えにくいという児童が多いというが、どうなのか。 ・あいさつがよくできる子どもが多い。 ・地域の子どもたちを見ると、進んであいさつをする子は少ない。
		学校を楽しいと感じている	A		
		自分の気持ちをはっきりと相手に伝えることができる	C		
		友達のよさを見つける（認める）ことができる	B		
		友達にやさしい言葉遣いができる	B		
		学級は、互いにルールを守り、協力する雰囲気がある	B		
かしこい子	◎対話して学ぶ子 ・学ぶ前と学んだ後の児童の変容が確認できるようにする ・対話を活性化させる条件を用いた対話活動を行う	授業の内容が分かっている	B	〇授業（単元）前と授業（単元）後に学びを振り返る場を設けることにより、子どもたち自身に変容（何を学んだか、何を理解したか）を気付かせるとともに、教師がそれを把握し授業に生かすようにした。徐々に変容が見られるようになってきているため、継続していく。 〇ペアやグループ活動を取り入れた「コミュニケーション活動」を継続し、発達段階に応じた、うなずく、言葉を返す、つなぎ言葉などを活用した対話スキルを学ぶことで、授業でも双方向の話し合いができるようになってきている。 〇家庭学習の取り組みについては、年度当初や懇談会などで手引きやガイドを参考に取り組めるよう繰り返し啓発を行ったが、依然として個人差がある。 ※全学年で本読みカードの裏表紙に「みなみが野学府の学習の手引き」を印刷し、家庭学習についての内容や時間について、毎日、保護者が目にし意識できるようにする。	・コミュニケーション活動を行って、子どもたちが対話スキルを学んでいるのはよいし、高度なことだと思う。 ・「決められた時間家庭学習をする」「進んで先生に聞いたり、自分で調べたりする」の評価が低い。 ・子どもたちが人前で自分の言葉でしっかり話せている。 ・学力テストでは、子どもたちはどのくらいの結果なのか。
		学ぶ前と学んだ後の自分について比べたことを言葉に表すことができる	C		
		決められた時間、家庭学習をしている	C		
		基礎的な学力が確実に身に付くように努力している	A		
たくましい子	◎苦手なことにも挑戦し、最後までやりぬく子 ・遊びの掲示や環境づくりをする ・清潔検査などによる委員会や教師の呼び掛けをする ・カラー写真による掲示をする	よく外に出て元気に体を動かしている	B	〇体力向上に向けての活動や行事（運動会・持久走・長なわ等）に対し、自分や学級の目標を立て、朝や休み時間を利用して、意欲的に練習に励むことができた。 〇馴染みのない遊びを本や掲示で紹介し、挑戦させるきっかけづくりをしたが、休み時間の子どもたちの実態を見ると、サッカーやドッジボールのように自主的に取り組みたくなるような魅力あるものにはならなかったようである。 〇通学班長会での指導や通学班会での自己評価の実施などにより、高学年のリーダーを中心に一人一人の意識付けを図ったため、安全に集団登校ができた。 ※新体力テストの結果から、全学年において長野小の子供たちは全国平均を下回る種目が多くある。運動意欲と体力の向上をはかるため、体育授業の充実や環境づくりを図り、運動の日常化を目指す。 ※清潔検査などによる委員会や教師の呼び掛けなどを継続し、手洗いうがいの励行をする。	・集団登校の時刻に間に合わない子がいるのが気になる。 ・休日は、子ども同士仲よく遊んでいる姿があって、人間関係が作られていると感じる。
		工夫して様々な遊びや運動に挑戦できる	C		
		自分から手洗いうがいをする	B		
		きまりを守って安全に登下校している	A		
		子どもの体力向上に向けて行事や場に工夫をしている	A		
家庭・地域との連携 地域を理解し、親しみをもたせるとともに、豊かな感性を育てるための龍門館教育の継承を図る 本校の教育活動について理解してもらうための広報活動を充実させる		龍門館教育の伝統や地域を生かした特色ある教育活動を進めている	A	〇コミュニティースクールコーデ゛ィネーターにより、多方面にわたる職業人や、多くの家庭科ボランティアの方に協力を得ることができた。総合的な学習、読書活動、登下校指導、放課後子ども教室での学習など、保護者や地域の方の協力に支えられて充実した活動ができている。今後も地域との結び付きを大切にしたい。 〇地域の歴史や自然に関心があると答えた子は約7割である。龍門館から続く長野小学校の歴史や緑十字機の史話、千寿の舞、米作りなど、今後も地域教材と関わる学びの場を生かし、子どもたちの意識が高まるような支援を継続する。 ※今後も保護者に教育内容の理解を十分はかるために、PTA総会や懇談会の際、学校の取り組みについての説明を行うとともに、学校便りやホームページでの情報公開を積極的に行う。	・ミシンボランティアに入った時に、子どもたちの力に差があると感じた。多くのボランティアで関わって、子どもたちをじっと見ていたので気がついたが、グループの中で支え合っている姿がとてもよかった。 ・1年生の昔の遊びのボランティアでは、ボランティアに入った地域の方々がとても楽しかったと言っていた。他にも「自分も声を掛けられれば行けたのに」という思いの人もいるのではないか。学校側からも、「こういう人が必要です」と、地域に呼びかけをしていくとよい。
		めざす子どもの姿や、取り組んでいる教育内容などについて知っている	A		
		保護者・地域の方に学校の様子などの情報公開を行っている	A		
		子どもは住んでいる地域の歴史や自然について関心がある	B		

学校関係者評価を受けてのまとめ

本校の子どもたちは、地域の方々に大切に育てられていると感じる。今年度は、コミュニティ・スクールコーディネーターを通して、多くの学習支援ボランティアさんに入っていただいた。学校に地域の人が入ることで、いろいろな人の生き方に子どもたちも刺激を受けるという御意見をいただいた。今後は、さらに地域の方々の力を教育活動に生かしていけるようにしたいと思う。